

RIVER'S STONE



AudioPhile Magazine (独) 2015 年版掲載記事

日本語要旨版

制作：株式会社アノディックサプライ



Number Three in Gold

River'sTone が開発したこの高貴なる小さな塊はメインとして、あるいはそれに準じるスピーカーシステムとしては小さ過ぎるかもしれませんが。しかしこのシステムを手に入れる人々はこのシステムに相応しい置き場所を確実に持っている人達なのです。

執筆者：Bernhard Rietschel

オーディオ記者としての20年間の活動の中で沢山のミステリアスなメーカーと製品に出会ってきました。例えば起源不明なレーザーマウス、それは重量5Kgの特殊な粒状が充填されてラウドスピーカーのサウンドに極度にポジティブなインパクトを満たすものです。ただし、スピーカーにそのマウスを置くとそれ以降の訪問者はあなたが既に正気だとはみなさないのあなたには憎悪を感じるようになります。特にコンパクト・スピーカーでは音像を定位置させて音の鮮明さを高めるために特別な抱き合わせ用の塊を必要とするのです。そのようにして追加される重量の塊は刺繍飾りのある眼(冗談ではなく)と細い金属線の髭を持つマウスのような形状と顔をしています。たぶん効果への貢献度は少ないでしょう。ひょっとしたら効果があるのかもしれませんが。とにかくそのマウスは通常よく使用されているのです。

しかし、そのようなマウスのポジティブな効果が全く現れない少数のスピーカーがあります。日本のメーカー Anodic Supply 社から提供された "River's Tone" もそのひとつです。彼等が開発したキャビネットは音響学的には完全に不活性なのです。我々がテストしたのは厚めの金箔(金めつき)が施された塊状のアルミニウムから製造されたライト・バージョンにすぎないのですが、その最上位のバージョンは純金から製造されているのです。各バージョンの重量は15Kg以上となっています。



3個のボディで1組のセットになっています。スピーカーは同一サイズのブリメイン・アンプによってぴったりと合うようになっています。AudioPhile誌の歴史の中で最もエニグマティック(不思議)な形態のひとつでもあります。その第一の理由として、この開発会社はハイファイとの関連性においてその名前が出てきたことがありません。第二の理由として Google で検索しても見つかりません。そして第三の理由としてメーカーへの直接の引合いが準備されていないからです。従って我々は、ドイツ人エージェントである Bodo Feldmann 氏が控えめで傷の付いたフライトケースに入った金色の小さな3個のボックスを弊社の編集室に運び込んでくれた時に与えてくれた限られた情報に頼る必要がありました。更に我々は色々調査を行いました。Anodic Supply は日本の中規模の工業系企業で、実質的には電子産業ではなく機械

部品の表面処理に特化した会社でした。ブランド名称 River'sTone は(会社の近くの荒川を引用している可能性もありますが)会社のトップである石川氏によって創設されました。彼の名前を直訳すると、"Stone River"であり、彼にとってこのベンチャー事業は専門分野以外の商売をするということではなく趣味だけだったのかもしれませんが。しかし製品を見れば、むしろプロフェッショナルなレベルで開発が実践されていることがわかります。River'sTone の技術開発には熟練されたプロフェッショナルを仕事仲間として迎えることになりました。音響デザイナーの坂本通夫氏は1980年代に東京都信濃町の大きなSONYのスタジオ施設において技術部門の責任者に、その後はSONY MUSICにて高い序列に位置していました。インターネット上では過去の業績に遡って情報を取るのが難しいのですが、英国のプロフェッショナルな雑誌 "Studio

意匠を凝らしたデザインの
スピーカーです：
スピーカードライバー正面のダイヤモンド仕様の保護プレートは煌く結露を持つアシ(植物)を想い込めます。それはクラシカルな金細工のスタイルで制作されています。

Sound" の旧号で、日本の1986年におけるレコーディング・スタジオについて多くのページが割かれていました。CDがブームとなり、その創世時に唯一資金的余裕があったSONYの全盛期に贅沢な装備を著ることができたレコーディング及びコントロール・ルームの有能な同僚達を指揮していたのが坂本氏でした。多くのスタジオでの著しく実践的な仕事への取組み方を知るプロフェッショナルな同僚の間で、坂本氏が純粋なオーディオ・マニアとして、もしもその定義があつているとすれば完全主義者であつたらうとスタジオの仲間達は推測しています。最先端の技術が投入された機器でさえ、彼の指導によって修正され続けました。例えば、あの伝説に残る Studer A80 テープ・マシンにはもはやオリジナルのヘッドが装備されておらず、その代りにSONY磁気部門によってカスタム・デザインされたヘッドが使用されました。

”音響デザイナー坂本通夫氏はそのキャリアを巨大企業 SONY のハードウェアであるスタジオとソフトウェアから始動しました。River'sTone は最大限に想像し得るコントラスト(対極にあるもの)なのです。

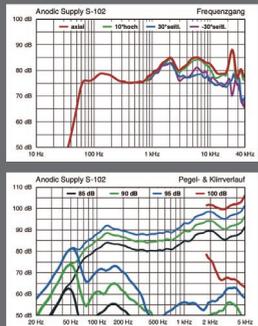


金塊を奏でる：
12cmを少し超える幅のアンプ及び2台のスピーカーは全ての机の上だけではなく、寝室、狩猟小屋にもフィットします。あるいは優先権は大きな船舶に譲りますが、俊敏な小型ヨットにもフィットします。

*製造者: Anodic Supply Co., Ltd.
 *ブランド名: The River'sTone
 *エンクロージャ・マテリアル及び定価(税別): - 記事掲載時 -
 ・ゴールド・プレーティング 3µm JP¥ 7,400,000.-
 ・ゴールド・プレーティング 10µm JP¥ 11,000,000.-
 ・純銀 JP¥ 27,500,000.-
 ・純金 (99.999) JP¥ 653,000,000.-
 原材料市場価格変動及び仕様変更による定価改訂の可能性につきましてご承知おください。
 *メーカー保証期間: 販売後 5年間
 *重量: 10Kg ~
 *寸法 (W/H/D): 12.4 x 13 (絶縁パッドの高さ込み) x 17 cm
 *スピーカー・グリル装飾宝石: 純銀/ジルコニア、またはプラチナ/ダイヤモンド
 *問い合わせ先(日本国内): 株式会社アノティックサプライ
 Tel : 03-5604-0121
 email : mail@anodic-supply.co.jp

-- 音響測定 --

無響室にて River'sTone スピーカーを測定しました。周波数特性において高音域が低音域及び中音域よりも 8dB 程度大きく (1) 存在感を伴って目立ったステップを示しています。デスクトップ (机の上)、あるいはコンソール (制御設備等) 上に設置して使用した場合、天板表面からの反射音によってレスポンスが大幅に伸びやかになります。このシステムは 95dB SPL 程度までの低音信号歪を示します。



坂本氏によればその A80 は音質が全く違ったものになったそうです。この技術責任者は全ての重要な機器の電源ケーブルを厳選した巨大なケーブルに置き換えることさえやってのけました。しかし我々は、キャビネットの壁面を落ち着かせるために坂本氏の指示によって鉛板の内張り装備した TAD ブランドのモニタースピーカーに満点の評価を付けたことがありました。鉛よりも密度が高い金属のほとんどはラウドスピーカーのキャビネットを制作するにはかなり有害であり、あるいは放射能汚染、または使用禁止に相当するか、さもなければ適性がありません。その一方で、金はたったひとつだけ不利な点があるだけです。それは極めて価格が高いことなのです。しかし 1500 オンスもの貴重な微粉をどこかに隠す必要がある人なら音楽が奏でられる形に変換して、それを転売するまで楽しむこともできるのでむしろ好都合です。非常に重たい純金を使用して製造するバージョンの現在の価格は Euro4.5Million と示されています。この価格のほとんどは素材に使用されている高貴な金属の価格に加えて、まるでガラスの脚のように成型されたスピーカー・グリルの上にセットされた、やさしく煌々非の打ち所のないブリリア

スパルタン (質実剛健): テストに使用したデバイスには一組の RCA 入力以外に他の入力ソケットは存在しません。この製品シリーズには Bluetooth も装備されます。

ントカットの宝石類の価格によるものです。今回本誌のテストに使用されたモデルはゴールド・プレートが施されたエントリー・レベル向けに価格は Euro50,000 なのですが、こちらのグリルはジルコニアによって装飾されています。しかしながら、このバージョンでさえ、エンクロージャーはまるで精密光学機器のように完璧なる滑らかさと磨きぬかれた表面を見せています。正面、あるいは側面から眺めても、一点の曇りもない純度を阻害するものが無く、筐体を構築するネジも、段差も、接合部分さえ無いのです。スピーカーとアンプは継ぎ目のないシームレスな金属の筐体の背面から内側へ取付けられており、最終的に製造者のみがこのリア部分を分解することができるよう封印されています。内側はどのようになっているのでしょうか? それぞれのスピーカー部にはカーボン・ファイバ織から製造した 8cm(3 inch) の低域から中域を受け持つシャシーが装備され、ほとんどフルレンジのように機能していますが、やや高めの 6-7kHz 帯域においてシルク・ドーム型ツイーター・スピーカーにつながります。そのウーファー及びツイーターはそれぞれが別々のアンプを使用して、同梱されている 4 極の Neutrik コネクターを装着した専用ケーブルを介して駆動されます。River'sTone によれば、最新バージョンではクラシックなスクリー付き端子を装着できるようにするそうですが、このプロフェッショナル用 Neutrik を好むのであれば勿論こちらも選択可能となっています。



” スタジオ全体の価格に匹敵するコンパクト・モニターサウンド: River'sTone は、アルチザン (熟練した職人) のクラフトワーク (工芸品)、ハイエンド (高性能)、そしてヘドニズム (享楽主義) が交差する領域において製品を創造しています。

アンプ部はハウジング (筐体) 中央に設置された 4 基のスイッチング電源アンプによって駆動され、後部の 2 基のフォノ入力経路にて音楽信号にアクセスします。信号にアクセスする他の方法は Bluetooth 経由であると思われる。アンプ・システム背面の電源スイッチをオンにして、フロントパネルの、魅惑的なハンドメイドの音量ノブ (つまみ) を調整することができます。しかしながらリモート・コントローラを何処にやってしまったのかと嘆くことは必要ありません。つまりリモコンは存在しないのです。

一般的にリモコンはさほど必要としないでしょう。なぜなら、River'sTone システムは腕の長さが届く範囲で、かつ耳付近の高さにスピーカーを位置させるというニアフィールド (近接場) の環境下という条件で聴いたときに最上の音を奏でるからです。このシステムを数週間、筆者の机に置きましたが、その間は愛用しているヘッドフォンを遠ざけるほど魅了されていました。このシステムは唯一 "本物" のラウドス

ピーカーのみが達成できる立体感のある明快なイメージング (結像) を伴って微細に渡る豊かさを融合したのです。机の天板による低音帯域におけるサポートにより、この小さな愛くるしいスピーカーは過度に派手な音質もなく完全にバランスの取れた信じられないほど繊細な音を醸し出します。楽器グループの音質的な相違を的確に維持すると同時に、大きくて複雑な楽器の筐体音も努力することなく解き明かされました。明らかに坂本さんは現在も自分がやっていることを良く理解されているようです。River'sTone は小型ニアフィールド・モニターにたやすく肩を並べることができます。スタジオ内に装備されている他の機器よりもはるかに高価な理由は主にそのワークマンシップに関係します。このシステムは最上級の宝石店のショーウィンドウの中に違和感なく置くことが可能です。数百万ドルの金塊バージョンも明らかに良い音質を伴うことが想像できるので集客が望めるでしょう。

*テストに使用した CD
 アーティスト: Annie Lennox
 アルバム名: Nostalgia

Eurythmics のボーカリストによるソロ・アルバムでサウンドは楽曲と制作の双方において勿論ノスタルジックです。River'sTone システムにおいて贅沢な編曲により大きなスケール感と透明感を心地良く奏でてくれました。

*編集者
 Bernhard Rietschel
 オーディオ部門のチーフ・エディタ。中古のプロ用エスプレッソ・マシン、あるいは新品のアメリカ製のワーキング・ブーツを探していない時には、自宅の古い Naim システムで流行中のインディーズのビニール・レコード盤を好んで聴いています。

-- レビュー総括 --
 AudioPhile 誌による分析
 巧み、優雅、上品、興味、情緒、活力

 AudioPhile 誌による製品のポテンシャル
 100%

AudioPhile 誌からの推奨
 この小さなシステムは大きめの部屋ではなくニアフィールド環境下で、理想的には机のように反響する卓上に置いて音を鳴らすのがベストです。

—製品情報—

製品バージョン

型番	筐体マテリアル	グリル部
Aurum	純金 (99.999)、Pure Gold	プラチナ + ダイヤモンド
Argentum	純銀、Sterling Silver	プラチナ + ダイヤモンド
Al-10-Au	金プレーディング、10µm Gold-Plated	純銀 + ダイヤモンド
Al-03-Au	金プレーディング、3µm Gold-Plated	純銀 + ジルコニア

*グリル部のデザインは手作りのため写真とは異なる場合があります。カスタム・デザインのご要望があれば可能な限り対応致します。

*筐体（ハウジング）用マテリアルのオプションとして高品位アルマイト・コーティングを施したアルミニウムもご用意しております。

主要スペック

- * 2-Way バスレフ型；バイ・アンプ回路；自社開発高性能スピーカークニット；Bluetooth オーディオ機能
- * NEUTRIK SPEAKON コネクタ；WBT プラグ方式コネクタ（オプション）

お問い合わせ先

For Mainland Europe, Russia & Middle East

Bodo Feldmann, Germany
Tel: +49 (0) 177 3 98 41 18
email: b.feldmann@bobizz.de

For UK

Sonic8 Limited, UK
Tel: +44 (0) 330 2020 166
email: RiversTone@sonic8.co.uk

For Japan, Asia, Oceania & USA Anodic Supply Co., Ltd., Japan

— —
日本；アジア；オセアニア；米国
株式会社アノディックサプライ
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-1-18

— —
Tel: (+81) 03 5604 0121
email: mail@anodic-supply.co.jp

